

第4回 向日町競輪事業外部有識者会議 次第

日 時：令和5年3月15日（水）

午後1時30分～

場 所：向日町会館 2階会議室

1 開 会

2 議 事

（1）「向日町競輪事業の今後のあり方に関する基本的な考え方」について

（2）今後の対応について

（3）意見交換

3 その他

4 閉 会

<配付資料>

出席者名簿、配席図

資料1 「向日町競輪事業の今後のあり方に関する基本的な考え方」

資料2 今後の対応（施設整備基金、基本構想）

資料3 向日町競輪事業の状況

資料4 今後の対応に関する論点

<参考資料>

第3回向日町競輪事業外部有識者会議 議事概要

第4回 向日町競輪事業外部有識者会議 出席者名簿

【委員】

(五十音順・敬称略)

氏名	役職等
岡崎雄至	寺戸町連合自治会会長
奥野美奈子	京都銀行取締役
川勝健志	京都府立大学副学長
小長谷敦子	小長谷公認会計士事務所
徳廣剛	京都府立北桑田高等学校長 (公財)京都府スポーツ協会参与
山本将利	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)主任研究員 横浜商科大学特任教授

【京都府】

氏名	役職等
能勢重人	京都府総務部副部長
福井景一	京都府自転車競技事務所長

向日町競輪事業の今後のあり方に関する基本的な考え方

令和 5 年 2 月
京 都 府

有識者からの意見聴取及び他の競輪場の状況などを踏まえ、「向日町競輪事業の今後のあり方に関する基本的な考え方」は、次のとおりとする。

1 基本的な考え方

(1) 今後のあり方に関する論点

今後のあり方の検討に当たり、向日町競輪事業外部有識者会議（以下「有識者会議」という。）での議論を踏まえ、その論点を次の3点とした。

① 競輪事業の持続可能性

競輪事業の収益により、一般会計からの繰入金（府民の税金）や地方債（将来の負担）による財源の確保を行わなくても、必要な施設の整備・不要施設の除却を行いながら、一般会計への繰出も継続できるかどうか。

② 競輪事業及び競輪場の意義・役割の再確認

来場者の減少やインターネット販売の増加など社会経済情勢の変化や競輪事業・競輪場のポテンシャルを踏まえ、競輪事業・競輪場の役割・意義について、「地方財政への貢献」以外の面（地域への貢献等）について見い出せるかどうか。

③ 公益性の担保

京都府が行う事業であることから、その前提となるギャンブル依存症など負の側面、経営の透明性や老朽化が進む施設の安全性の確保などへの対応など「公益性の担保」に向けた取組が認められるかどうか。

(2) 有識者会議からの意見

有識者会議では、上記論点を踏まえ、議論いただいた結果、

- ・ 収支見通しの継続的な分析は必須ではあるが、必要な施設整備と京都府財政への貢献（一般会計への繰出）の両立は可能とされ、また
- ・ 存続に当たっては、京都府財政への貢献だけではなく、競輪場の自転車競技などのスポーツ振興や広域避難場所の指定などの防災拠点としての活用、投票所など老朽化した施設の除却や投票・観戦施設の集約により生じる余剰スペースの有効活用などによる、地域との連携・地域への貢献が必要との意見も付された上で、有識者会議としては、存続の方向で意見が集約された。

(3) 論点についての検証

まず、競輪業界の現状（開催時間帯や車券販売方法の工夫など事業のモデルチェンジによる車券売上・収益の大幅な改善）や収支見通しなどを踏まえ、論点①（競

輪事業の持続可能性) について、次のとおり検証を行った。

① 競輪事業の持続可能性 ※「収支見通し」・「施設整備の方向性」参照

向日町競輪事業は、包括民間委託の実施やミッドナイト競輪の開催などの経営改善の取組により、平成23年度以降、黒字で推移している。

最近の状況に基づく収支見通し（当面、年間車券売上は概ね200億円台を維持し、単年度収支でも7～8億円を確保）を踏まえると、競輪事業の継続のために必要な施設整備（バンクの全面改修、来場者の減少を踏まえた投票・観戦施設や機能の集約化、老朽化した施設の除却など）を行いつつ、一般会計への繰出など「地方財政への貢献」も引き続き見通すことができる。

次に、競輪事業を取り巻く環境の変化（来場者の減少などの社会経済情勢の変化など）への対応や地域貢献・地域振興への取組を行っている他の競輪場の状況を踏まえるととともに、向日町競輪場の特徴（立地などの地理的な優位性）も考慮し、競輪事業を継続する場合にその前提となる、**論点②（競輪事業及び競輪場の意義・役割の再確認）**及び**論点③（公益性の担保）**について、次のとおり検証を行った。

② 競輪事業及び競輪場の意義・役割の再確認

競技大会の開催に伴う集客やスポーツに触れる機会の提供など、競輪事業を通じた地域振興への貢献や、レジャーや憩いの場、スポーツ活動や防災の拠点としての競輪場の活用など、競輪場を設置する本来の目的である「公益の増進」、「地方財政への貢献」以外の「競輪事業や競輪場の意義・役割」が再確認された。

③ 公益性の担保

ギャンブル依存症への業界を挙げての取組、老朽化した施設の除却などの施設の安全性の確保など「公益性の担保」に向けた対応が確認された。

(4) 基本的な考え方

論点についての検証を踏まえ、現在の包括民間委託が終了する令和6年度まで継続するとされている競輪事業については、令和7年度以降も継続する。

競輪事業については、持続可能となるよう、引き続き、経営改善の取組を実施するとともに、競輪事業の社会貢献・地域振興の取組の周知、競輪をはじめとする自転車競技の魅力発信を通じて、府民の理解促進を図る。

競輪場については、来場者が大きく減少する中、京都府の施設である以上、多くの府民に利用されることが望ましく、来場者（利用者）を増やすことが必要である。

そのため、老朽化が著しい施設について、施設・機能を集約の上、競輪事業の継続に必要な施設整備を実施する。その上で、交通アクセスが至便であることなどその立地の良さを活かし、集約化に伴い生じる余剰スペースの整備を実施する。

こうした整備を実施することにより、向日町競輪場を、競輪開催の場としての機能だけでなく、レジャーや憩いの場、スポーツ活動・防災の拠点などの多目的・複

合的な機能を併せ持った、地域の交流・賑わいの拠点となる施設へと転換させる。

これらの取組により、向日町競輪場を、競輪・自転車競技関係者のみならず、府民に広く親しまれるような存在へと変革する。

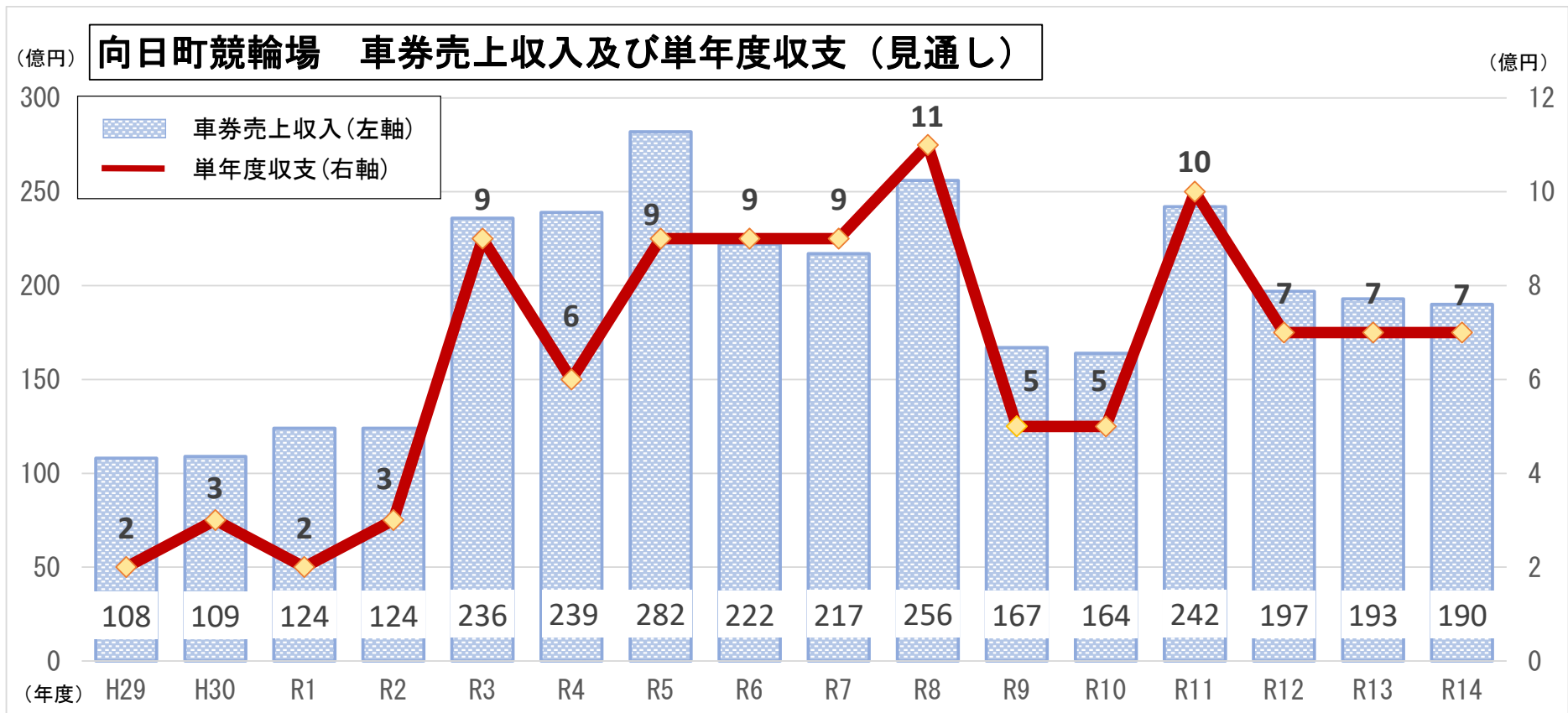
2 今後の対応

基本的な考え方を踏まえ、次の取組を実施する。

- ・ 令和4年度において、計画的な施設整備を目的とする基金を設置し、積立による資金の確保を図る。
- ・ 令和5年度において、競輪事業の継続に必要な施設整備や余剰スペースの整備を実施するための基本構想を策定する。

なお、基本構想の策定に当たっては、収支の継続的な分析を行うとともに、関係者から幅広く意見を聴取する。

併せて、民間事業者のノウハウ・資金の活用も検討する。



<ポイント>

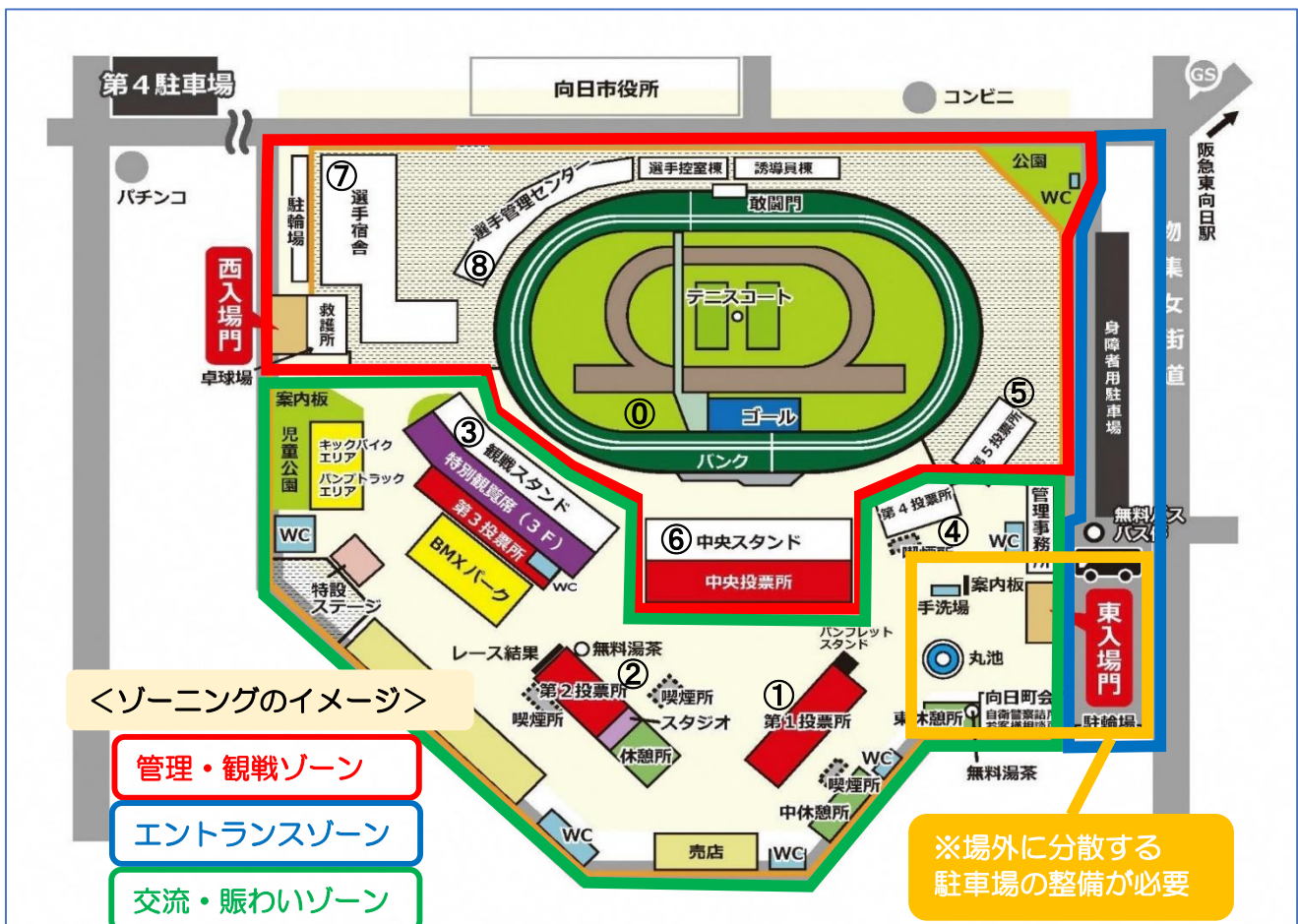
- コロナ禍における巣ごもり需要により、インターネット売上が好調であることから、当面の売上は現状維持の見込み。なお、令和5年度は臨時開催の施設整備協賛競輪の売上を盛り込む。
- 今後は、アフターコロナによる成長鈍化や物価高騰による消費冷え込みが懸念されるが、これらを踏まえても、収支見通しは、今後10年間、年間売上は概ね200億円台、単年度収支も概ね7～8億円程度を維持できる見込み。

※令和9年度下半期及び10年度上半期に施設改修等による休場し、令和8年度及び令和11年度に一部レースをシフトして開催することを想定。

向日町競輪場の施設整備の方向性(想定イメージ)

- インターネット販売の増加やミッドナイト競輪（無観客で開催）の開催による来場者の減少を踏まえ、**施設・機能を集約化**
 収容人数：2万人→5千人
 投票所：6箇所→2箇所 観覧席：2箇所→1箇所
- 集約化に伴う余剰スペースの発生(敷地面積の4割程度)
 → **余剰スペース等の有効活用(多目的・複合的な活用)**を検討

No	建物名	整備の方向性
0	バンク ※S61以降大規模改修未実施	大規模改修
1	第1投票所	(1)中央スタンド(投票所+観覧席) (2)外向け車券投票所 () ・投票所 → (1)(2)に集約 ・観覧席 → (1)に集約
2	第2投票所	
3	第3投票所及び特別観覧席・観戦スタンド	
4	第4投票所及び第2観覧席	
5	第5投票所及び第1観覧席	
6	中央投票所及び観覧席(中央スタンド)	
7	選手宿舍 ※H4整備	現状維持(将来的に改修)
8	選手管理センター ※H13整備	現状維持(将来的に改修)



今後の対応（施設整備基金の設置・基本構想の策定）

1 趣 旨

- 「今後のあり方に関する基本的な考え方」を踏まえ、
- ・ 令和4年度において、計画的な施設整備を目的とする基金を設置し、積立による資金の確保を図る。
 - ・ 令和5年度において、競輪事業の継続に必要な施設整備や余剰スペースの整備を実施するための基本構想を策定する。

2 施設整備基金の設置

令和5年2月京都府議会に基金設置条例・補正予算を提案し、議決

3 基本構想の策定

(1) 策定方法

民間事業者への策定支援業務委託により、京都府が策定

(2) 内容（構成等） ※今後の施設整備に向け、条件等の検討・整理を行うもの

① 現状・課題

施設、サービス（観戦、場内サービスなど）

② 売上・収支見通し及び経営改善

売上・収支の見通し（今後10年間）、経営改善の取組

③ 整備方針

コンセプト・ゾーニング、施設・機能の集約（必要な施設・機能の規模・配置など）、余剰スペースの活用イメージ、整備手法（民間事業者のノウハウ・資金等の活用）、各種配慮（法規制、バリアフリー、環境など）

④ 整備後イメージ、想定事業費（競輪事業の継続に必要な施設）、スケジュール（今後10年間）

⑤ その他

- ・ 府議会・有識者会議からの意見等への対応

<主な意見>

府議会	ギャンブル依存症対策、地域住民の意見反映、老朽施設への対応、飲食サービスの充実、収益性の向上
有識者 会 議	継続的な収支分析、関係者の意見聴取、民間ノウハウの活用、維持管理コストの縮減

- ・ 基本構想の策定に当たっては、関係者から幅広く意見を聴取

(3) スケジュール

秋頃を目処に中間案、年内を目処に最終案をとりまとめ予定

向日町競輪事業の状況

1 競輪の開催状況及び施設の状況等

- (1) 車券売上（令和4年度）の状況 ※令和5年3月1日時点
 約224.4億円（令和3年度（年間）：約236億円）
 （内訳）本場 2.6億円（1.2%） 電話投票 29.2億円（13.0%）
 場外45.5億円（20.4%） ポータル147.1億円（65.4%）

＜参考：公営競技の状況（令和5年1月末時点）＞

出典：公益財団法人JKCA調べ（前年度は年間の金額）

競輪（43場）	9,093億円	（前年度	9,646億円）
中央競馬（10場）	2兆7,423億円	（前年度	3兆1,558億円）
競艇（24場）	2兆243億円	（前年度	2兆3,926億円）
地方競馬（17場）	9,045億円	（前年度	9,933億円）

- (2) 令和4年度来場者数 ※令和5年3月1日現在
 （本場開催）【55日開催】
 30,284人（令和3年度（年間 60日開催） 24,368人）
 （場外開催）【279日開催】 *本場との併催日除く
 248,701人（令和3年度（年間256日開催） 232,075人）
- (3) 運営・体制及び開催区分 } ※2～9頁参照
 (4) 立地・敷地・施設等の状況 }

2 サイクルスポーツ及び地域との連携状況 ※令和5年3月1日現在

- (1) サイクルスポーツとの連携 ※10頁参照
- ・ バンク利用状況（高体連強化合宿、自転車競技大会、バンク走行体験等）
 3,027人（令和3年度（年間） 3,595人）
 - ・ サイクルパーク京都利用状況（BMXフリースタイルコース等）
 2,590人（令和3年度（年間） 2,125人）
- (2) 地域との連携
- ・ 向日町競輪場周辺環境整備事業交付金（令和4年度：40百万円）
 教育福祉施設、緑化公園施設、公衆衛生施設、防災施設等の整備に対する支援
- (3) 場内施設開放
- ・ スポーツ施設利用状況（卓球場、テニスコート、グラウンド等）
 4,883人（令和3年度（年間） 5,771人）
 - ・ 向日町会館利用状況（文化活動、会議等）
 2,692人（令和3年度（年間） 2,797人）
- (4) イベント・催事等 ※11・12頁参照
- ・ 向日市まつり
 令和4年11月12～13日に開催予定であったが、コロナにより中止
 - ・ KARA-1ナイト&むこうまちイルミ「食と光の祭典」
 令和4年12月10～11日の2日間開催。来場者約9,000人
 - ・ サイクルフェスタ・BANK LEAGUE 2022
 令和4年8月14日に開催。来場者は、昼の部640人 夜の部76人
 おもしろ自転車・キックバイク体験、マルシェ・キッチンカー等出店

○民間包括委託(平成29年度～)

- ・人件費等の固定費縮減の継続、変動費の抑制が課題。
- ・高校自転車競技部のバンク利用、BMXフリースタイルコースの設置運営等、競技人材育成やサイクルスポーツの裾野の拡大を推進。

○投票窓口(令和4年度)

投票窓口の自動化(無人化)率 93.8% <全国3位>

○開催内容(令和4年度)

* 昼間の通常開催の他、ミッドナイト競輪(20:30～23:30)を実施

(ミッドナイト競輪) 実施: 27競輪場 ※ミッドナイトは開催枠いっぱい(年8回)まで実施。

(ナイター競輪) 実施: 26競輪場(未実施)

(モーニング競輪) 実施: 25競輪場(未実施)

→ さらなる増収にはナイター等の実施も検討。ただし地域の理解が必要

○来場者数(令和3年度)

年間 24,368人 <全国23位> * 1日当たり840人 <全国21位>

* 一人当たり購買単価8,600円/人 <全国26位>。購買単価は向日町も含め全国的にも減少傾向。

3 立地・敷地の状況

○敷地面積・収容人数

(敷地面積) 56,535.89㎡ <全国18位> (収容人数) 20,000人 <全国11位>

→ 来場者の減少を踏まえた施設のコンパクト化と余剰土地の有効活用が課題。

※ピーク(昭和46年度) 974,777人/年(1日当たり 13,538人)

○財産区分

行政財産(全国→普通財産29場、行政財産10場、混在2場、民間2場)

→ 時代に即した柔軟な敷地利用に課題。

○都市計画

近隣商業地域(建蔽率80%、容積率200%) 特別用途地区(娯楽・レクリエーション地区)

○アクセス

阪急東向日駅・徒歩約10分、JR向日町駅・約15分。 阪急バス・無料送迎。

○土地形状

場内全体が西から東に傾斜しており、敷地の有効活用には整地が必要。

○防災関係

指定緊急避難場所、指定避難場所。備蓄倉庫あり。

4 施設の状況

○バンク

- ・大規模改修は昭和61年度が最後。
(平成以降、大規模改修していないのは、向日町以外は全国で2場のみ)

○投票所・管理スペース

- ・常時稼働は、中央投票所と第1投票所。第3投票所はGⅢレース時のみ活用。第2・4・5投票所は閉鎖。 →施設コンパクト化が重要
- ・場外・サテライト車券売場なし(全国28場で設置)。前売・早朝投票所なし(全国34場で設置)。キャッシュレス対応なし。(全国7場で導入)
→今後のDX時代への適応が課題
- ・集計等システムの陳腐化(メーカーの製造中止)、電気系統の老朽化。

○選手宿舎

- ・平成4年度に整備。(全国で11番目に古い)。整備は場内。(全国32カ所)
→風呂が一つしかなく男女入替は時間制。トイレの洋式化進まず。

○駐車場

- ・収容1,260台(大部分は敷地外に分散。徒歩約5分。利便性に課題)

5 近隣スポーツ施設の状況①



5 近隣スポーツ施設の状況②

○周辺スポーツ施設の概要

施設名	施設面積(㎡)	収容人数(席)	備 考
サンガスタジアムby KYOCERA	33,140	21,600	
西京極総合運動公園	180,857	20,570	※収容人数は陸上競技場兼球技場座席数
ハンナリーズアリーナ(京都市体育館)	14,443	2,500	
島津アリーナ京都(府立体育館)	12,843	8,000	
向日町競輪場	56,535	20,000	

※その他、乙訓地域及び周辺区のスポーツ施設として、向日市民体育館(大体育室、小体育室、会議室等)、府立伏見港公園(体育館、テニスコート、プール等)、長岡京市立スポーツセンター(体育館、グラウンド、テニスコート)、西山公園体育館(大体育室、小体育室、武道場等)、大山崎町体育館(大体育室、小体育室、研修室等)が存在する。

→従来型の体育館や運動公園は多いが、BMXやアーバンスポーツに対応する施設はあまりない。

- ・BMXパーク(フリースタイル)→向日町競輪場
- ・3×3、ボルダリング →サンガスタジアム

6 圏域人口の状況

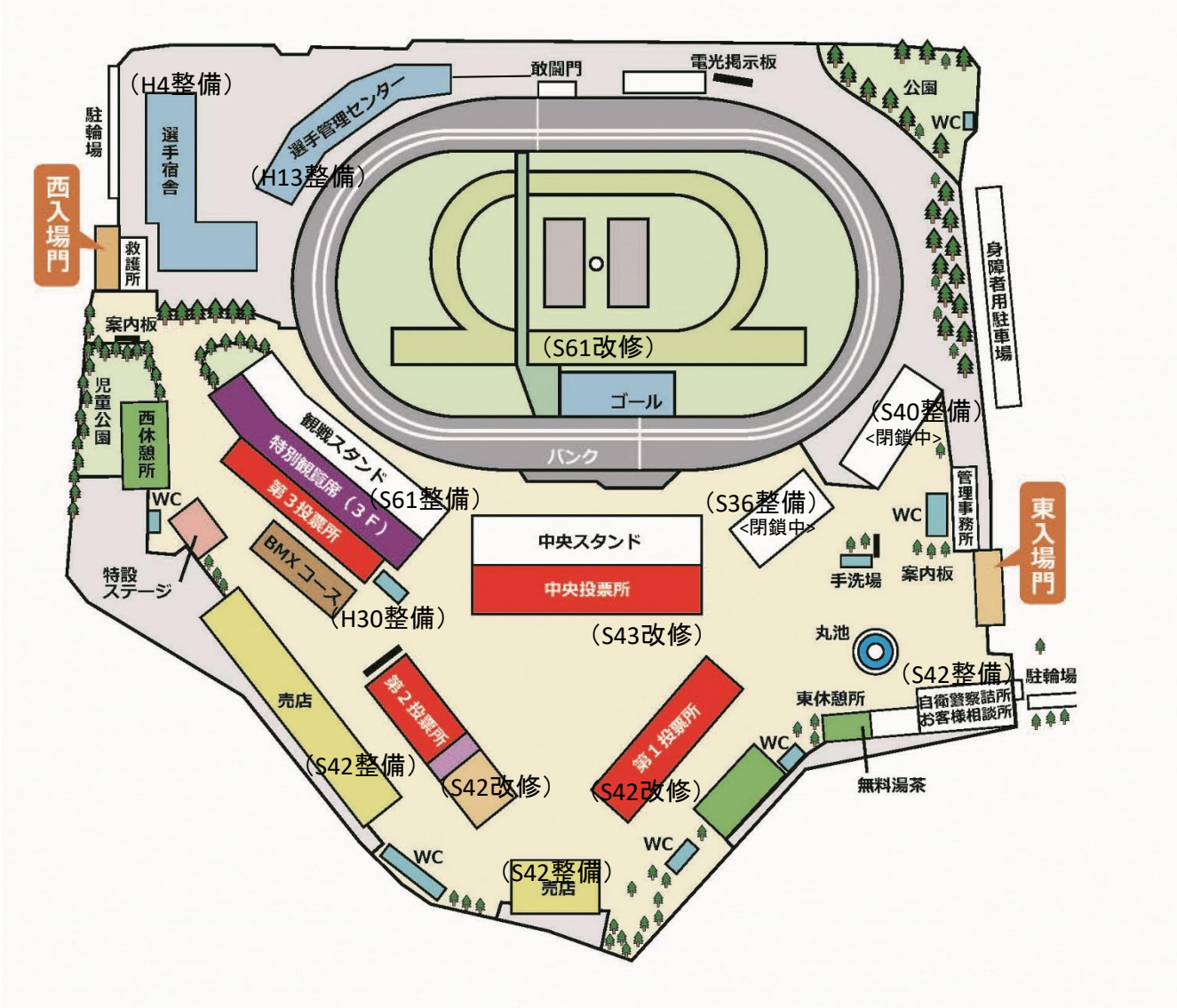
○周辺地域の人口推移

<乙訓地域>	平成22年	令和2年	<隣接3区>	平成22年	令和2年
向日市	54,328	56,859	南区	98,744	101,970
長岡京市	79,844	80,608	伏見区	284,085	277,858
大山崎町	15,121	15,953	西京区	152,974	149,837
計	149,293	153,420	計	535,803	529,665
			合計	685,096	683,085

※平成22年及び令和2年の国勢調査結果を基に作成

周辺地域の人口推移に大きな変化はないが、競輪場周辺5km²のゼロ～4歳児の人口構成比が全国3位であり、子育て世代が多く居住していると推測できる。

向日町競輪場 施設概要



東入場門



第3投票所



第3投票所2階



特別観覧席



バンク



中央スタンド



売店1



売店2



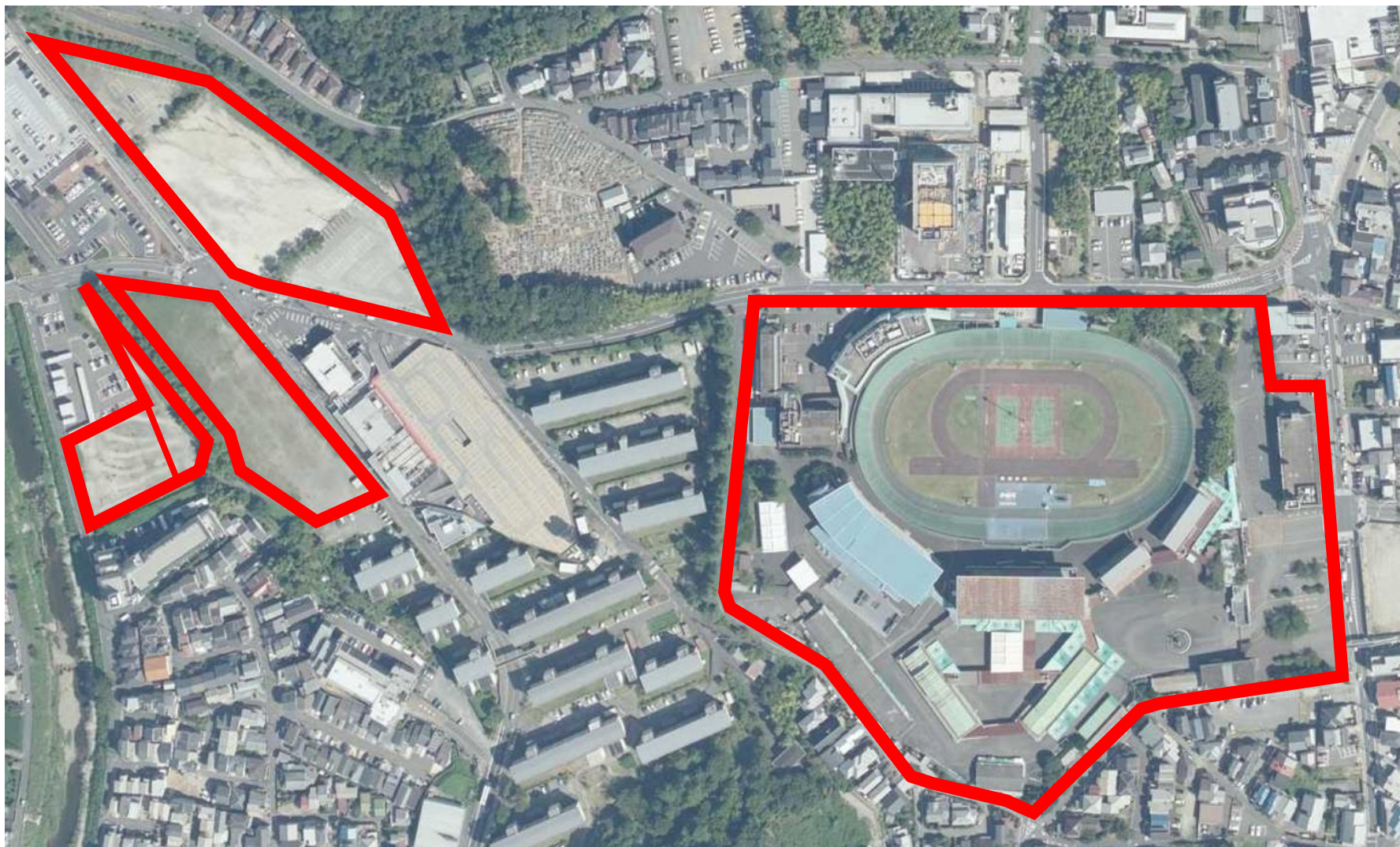
西入場門

向日町競輪場 バンク基本情報



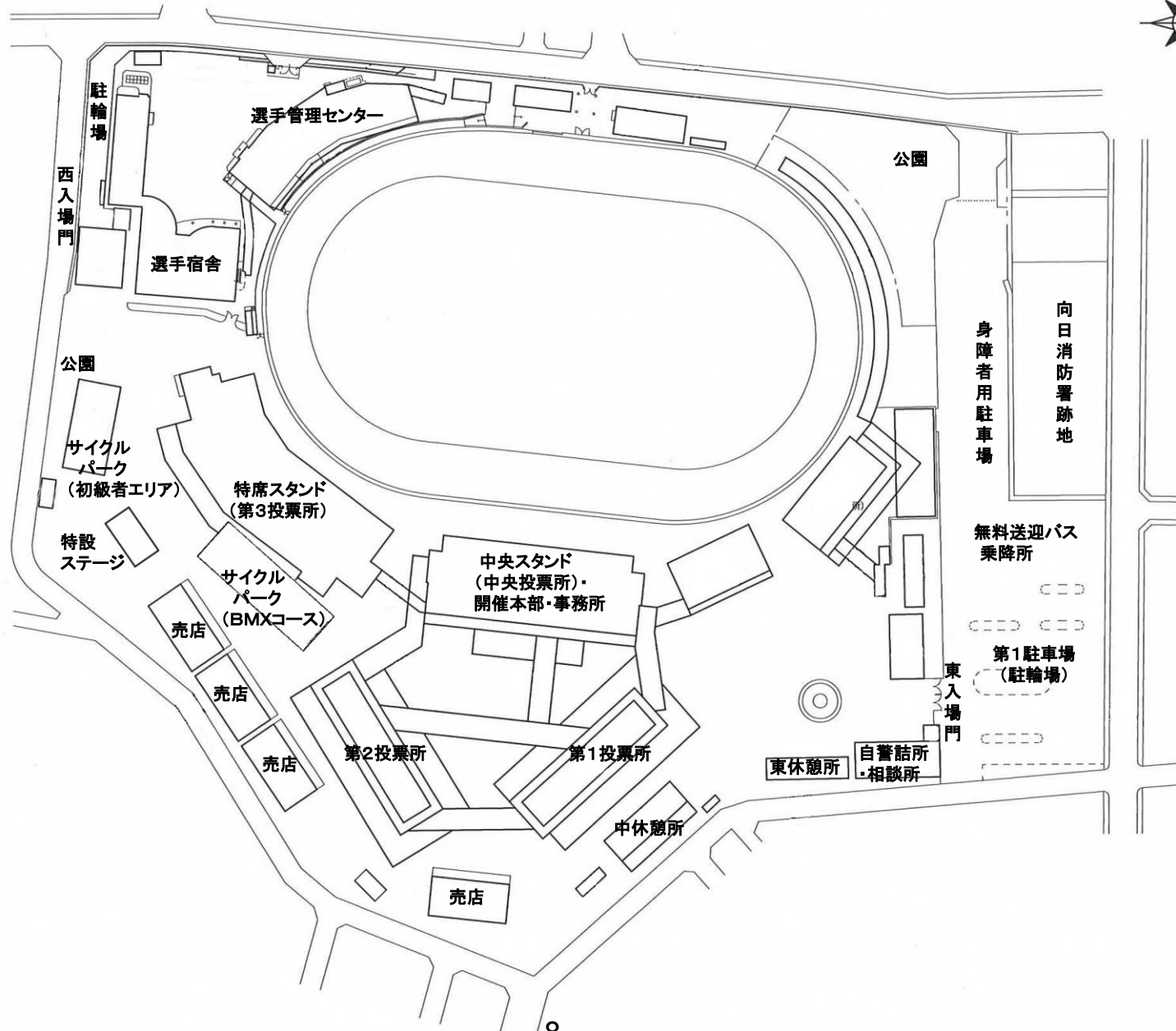
所有者	京都府
名称	向日町競輪場
所在地	京都府向日市寺戸町西ノ段5番地
設置年月日	昭和25年11月15日
敷地面積	56, 535. 89平方メートル
収容人員	約20, 000人
入場料	50円
特別観覧席	座数:407席、入場料:1, 150円
走路	周長：400メートル 傾斜角：最大 30° 29′07″ 緩和曲線：マツコーネル 路面：アスファルト、ウォークトップ舗装
駐車場	4箇所／収容台数：1, 260台
売店	11店
スポーツ施設	陸上競技場 100m直線コース、200mトラックコース、三段跳び兼走り幅跳び 球技施設 テニスコート、卓球 ※無料で向日市民の方に貸し出しています。 申込み及び利用可能日等の問い合わせは、向日市教育委員会へ。

向日町競輪場の概況（駐車場を含む）

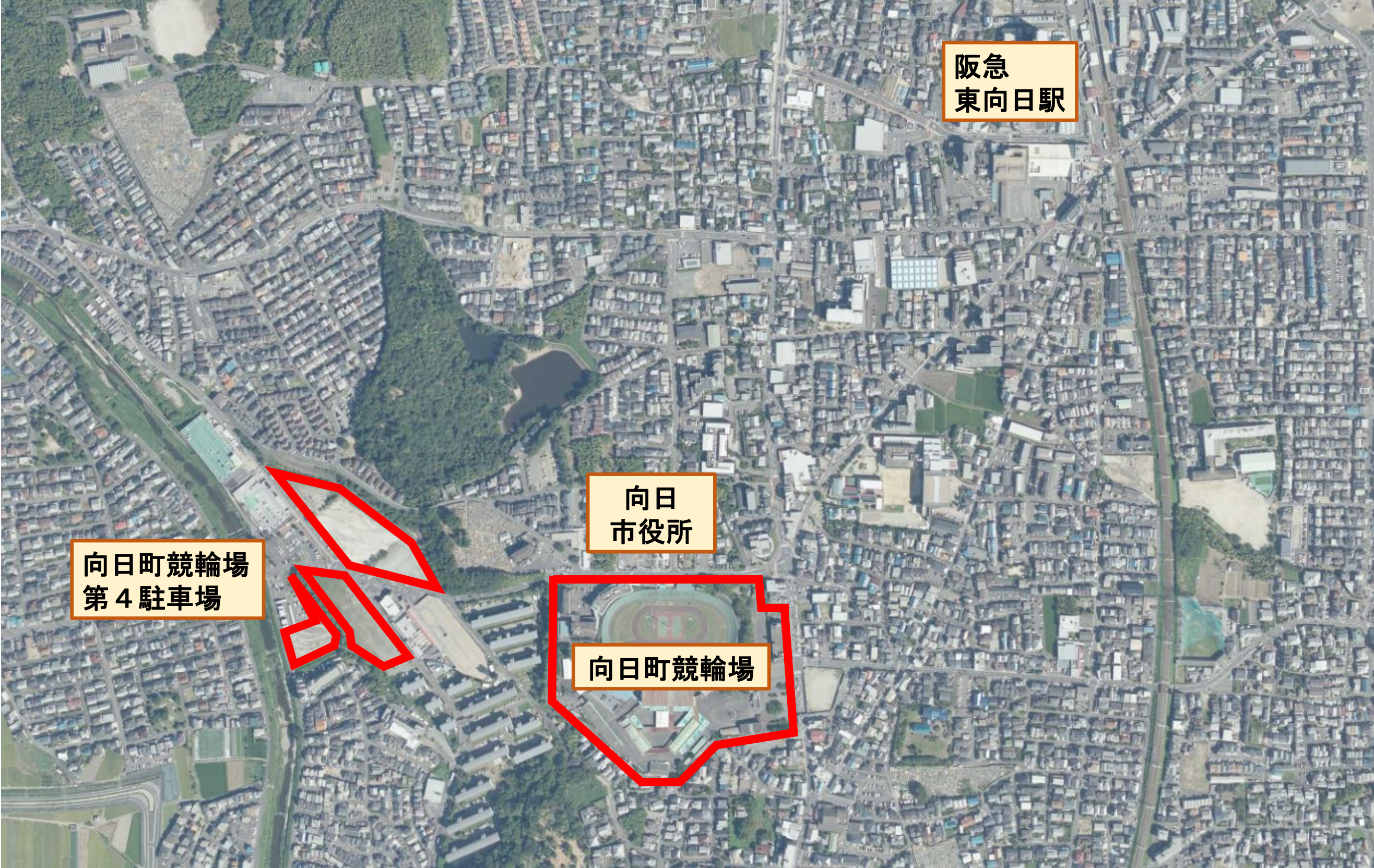


「空中写真データ」(国土地理院)

(<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=1890522>)をもちに京都府作成



向日町競輪場の概況（駐車場を含む）（広域）



サイクルスポーツとの連携

 KYOTO
CYCLE CLUB



バンク走行体験



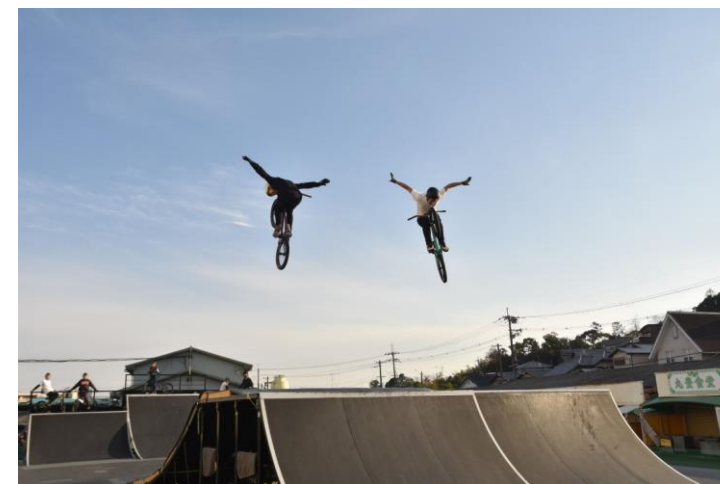
近畿高校自転車競技新人大会

CYCLE PARK KYOTO
CPK

サイクルパーク京都



パンフトラック体験



BMXフリースタイル

KARA-1ナイト &むこうまちイルミ 「食と光の祭典」

KARA-1ナイト & むこうまちイルミ

食と光の祭典

激辛グルメや地元フードを
光り輝く競輪場で楽しみましょう!

2022 12/10(土) 11(日)

夕方5時～夜9時 向日町競輪場

<https://kara-1.com/2022/>

地元産の竹を使った
竹あかりコーナー

入場無料

【会場】京都市向日町競輪場
京都市向日町西ノ段5
駐車場あり

※今年度のKARA-1はグランプリ形式ではございません。

キラキラ光る競輪バンク内で
自転車走行体験 (事前予約)

※競輪バンク内には観覧席がございません。

※本イベントは観覧席がございません。観覧はスタンドからとなります。

※本イベントは観覧席がございません。観覧はスタンドからとなります。

※本イベントは観覧席がございません。観覧はスタンドからとなります。

BMX体験会

イルミネーション
ライトショー

競輪場内がイルミネーションで
ライトアップ!

KARA-1
ナイトマーケット

激辛グルメや地元フードが
約30店舗出店!

地元産の竹を使った
竹あかりコーナー

一緒にイベントを盛り上げましょう!
お楽しみ素敵なプレゼント

- 1 電飾された衣装でご参加頂いた方
- 2 当日の様子をハッシュタグを付けてSNSに投稿頂いた方

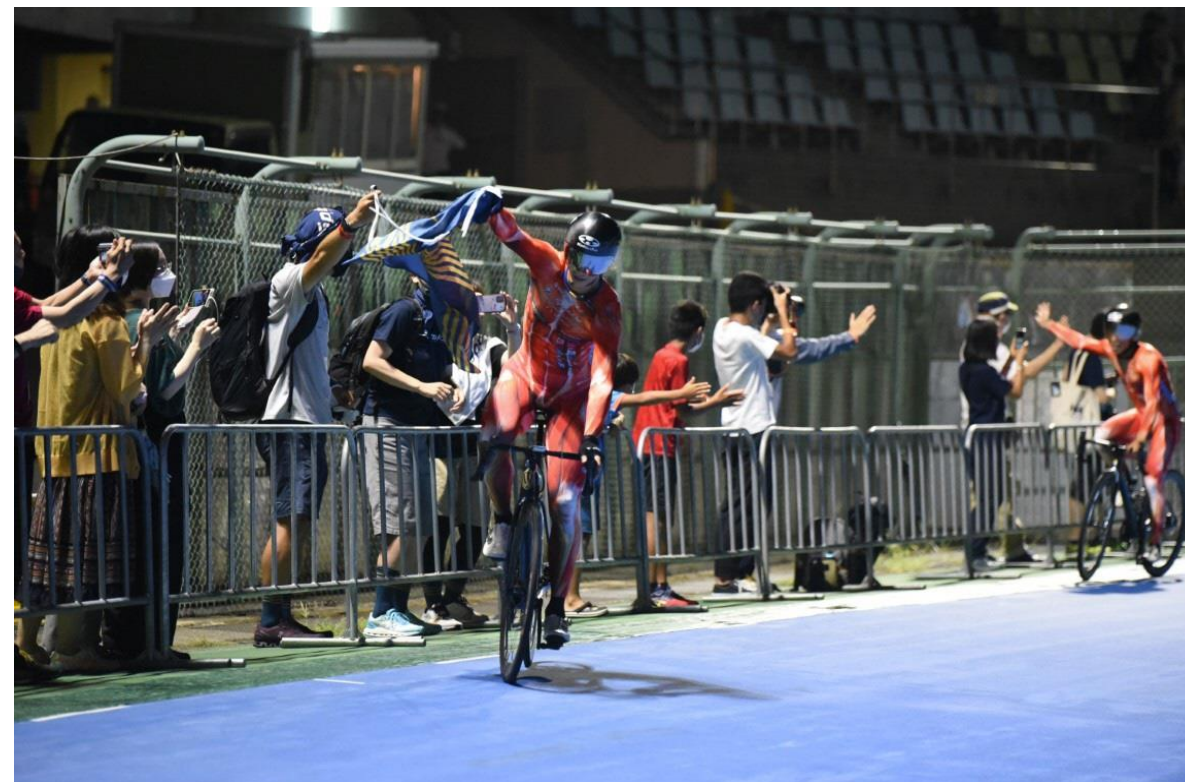
電飾グッズを身に付けるだけでもOK

#向日町イルミネーション
#むこうまちイルミ
#キラキラ競輪場
#カラワングランプリ
#kara1ナイト #kara1
#京都市向日町競輪場

(1) #kara1 (2) #kara1 #kara1



サイクルフェスタ・ BANK LEAGUE 2022



今後の対応に関する論点

論点 1

競輪事業を持続可能なものとするための、競輪事業及び競輪場の「課題」及び「必要な取組」はどうか。

<課題（例示）>

（競輪事業） ※参考資料①、②、④参照

○ 競輪事業の経営改善（収益性の向上）

収入の確保（例：ネーミングライツの導入、協賛レースの実施、開催時間帯の見直しなど）

運営・維持管理コストの縮減

財産区分（行政財産）の見直し（時代に即した柔軟な敷地利用）

○ 競輪事業の活性化・イメージアップ

スポーツとしての魅力発信

地域・企業との連携

社会貢献（検診車等の購入補助、一般会計への繰出など）の周知

ギャンブル依存症に配慮した取組

（競輪場） ※参考資料①～⑤参照

○ 来場者（利用者）の確保

（例）入場料の無料化（本場開催時に50円を徴収）

飲食サービスの充実

非開催時の施設の有効活用（地域住民等の利用促進）

集約化により発生する余剰スペースの有効活用

観光資源としての活用

論点 2

基本構想に「盛り込むべき内容」や「留意すべき点」はどうか。

<例示：資料 2 から引用> ※参考資料①～⑥参照

- 現状・課題
- 売上・収支の見通し及び経営改善の取組
- 施設・機能の集約（必要な施設・機能の規模・配置など）
- 余剰スペースの活用イメージ
- 整備手法（民間事業者のノウハウ等の活用）
- 各種配慮（法規制、バリアフリー、環境などへの配慮）
- 府議会・有識者会議からの意見等への対応
（関係者の意見聴取、地域住民の意見反映、ギャンブル依存症対策など）
- 策定に当たっての関係者からの意見聴取

参考資料

■参考①：包括外部監査の指摘事項及び意見（令和4年3月）（抜粋）

競輪事業を取り巻く状況は大きく変化してきており、向日町競輪場の現状を会計的な視点から分析し、現時点での正確な状況を把握することで、将来の見通しを立てるとともに、乙訓地域における地域振興・スポーツ振興の拠点としての多面的な機能や新たな活用策について検証することは、京都府政を考える上でも有意義と考え、本テーマを選定

収益事業について、法令遵守、合規性、経済性、有効性及び効率性の観点から、特に以下の点に留意して監査を実施した。

- ・ 売上、収支等を踏まえた管理運営ができているか。
- ・ 売上増加、収支改善等に向けた利用促進策を進めるなど経営努力が行われているか。
- ・ 乙訓地域の地域振興・スポーツ振興の拠点としての機能を果たしているか。
- ・ 財務事務の合規性、正確性、経済性、効率性及び有効性の観点から合理的かつ適正に対応できているか。

	指摘事項	意見
収支状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公営競技納付金の削減及び一般会計繰出金の合理化を目的とした基金の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入場料の見直し ・ 将来的な場外発売減少への対応 ・ 将来的な変動費率の低減
施設・設備の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な修繕の管理 ・ 第4駐車場群の整理と向日消防署跡地の有効活用 ・ 駐車場グラウンドの積極的な貸出し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バンクの改修 ・ 走路内施設 ・ 第4投票所棟、第5投票所棟の取壊し
運営管理の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な備品管理料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現金準備額の見直し ・ 包括民間委託の結果評価 ・ 公募型プロポーザルにおける参加者の確保 ・ 予定価格調書への不適切な記入と形骸化 ・ 単独随意契約とすることの検討 ・ 場外開催時の店舗加算使用
総括・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者アンケートの実施とインターネット投票者の取込み ・ 向日町競輪事業存廃の再検証の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競輪場存廃の方向性

■参考②：埼玉県競輪事業検討委員会報告書（令和4年3月）（抜粋）

- ・ 入場者数の減少傾向や高齢化を考えると、競輪事業の継続的な発展のためには新たなファン層の開拓を行う必要がある。
- ・ 競輪場のイメージについて調査したところ、多くの人が競輪場に良い印象を持っていないという結果が出た。競輪事業の目的周知やイメージアップを図る必要がある。

課 題	対 応 策
競輪事業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ① 一般入場料の無料化 ② 競輪初心者向けのイベント、演出の実施 ③ 競輪場内でアートなどをテーマにしたイベントの開催 ④ 競輪場内への人気飲食店やカフェの誘致 ⑤ 競輪を楽しめる演出の実施 ⑥ 団体客誘致のためのBOX席設置の検討 ⑦ 地元を拠点としたエンターテイメント企業との連携 ⑧ スポーツ・バーと連携したネット車券販売の展開 ⑨ 学校との連携 ⑩ 競輪選手の意見を反映した取組の実施 ⑪ 大宮双輪場の大宮公園との一体化
イメージアップ	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツとしての競輪の魅力発信 ② 自転車競技の普及に向けた取組の充実 ③ 社会貢献のアピールの継続的な実施 ④ 目的、方向性を掲げた事業の実施 ⑤ Jリーグのブランディングの研究

■参考③：「大宮スーパー・ボールパーク構想」（埼玉県。令和4年3月）（抜粋）

（新規導入施設の検討）民間から提案のあった新規導入施設の例

- ① 飲食施設（カフェ、レストラン、バー等）
- ② 物販施設（マルシェ、スタジアムショップ等）
- ③ 運動施設（アリーナ、スケートボードパーク、自転車競技場等）
- ④ 遊戯施設（遊園地、アスレチック等）
- ⑤ 公益施設（観光案内所、図書館等）
- ⑥ コンテンツ（イベント開催、運動教室、スタジアムツアー等）

※ 大宮スーパー・ボールパーク構想

大宮公園グランドデザインに基づいた公園再整備の一環として、大宮公園の主要施設である3つの競技施設（双輪場（大宮競輪場）・野球場・サッカー場）を含むエリアの整備により、大宮公園を『試合がある日もない日も楽しめる公園』とする基本的な方針を示すもの

■参考④：防府競輪活性化計画（令和3年3月）（抜粋）

IV 活性化に向けた方向性と取組

1 交流の輪が広がる競輪場

(1) 明るいイメージの創出

本競輪場の特徴である「幸せます」のピンク色を用いた場内整備や愛称の命名を行うなど、明るいイメージの創出に努める。

《主な取組》

- ・ 防府競輪場のイメージカラーである「幸せます」のピンク色をあしらった施設整備による明るいイメージの創出
- ・ 防府競輪場をより親しんでもらうための愛称の命名
- ・ 「おもてなし」の雰囲気づくりのための競輪場関係者への接遇教育の実施
- ・ 競輪初心者へのレクチャーを始めとした様々な来場者のニーズに応える体制整備
- ・ 競輪場利用者でない方も利用できる飲食スペースの整備

(2) 新たな交流の創出

子どもから高齢者までの幅広い世代の方々や女性が、気軽に立ち寄り、楽しめるような場を提供することで、新たな交流が生まれるきっかけを作る。

《主な取組》

- ・ 「おもしろ自転車」や子ども向けの「キックバイク（ペダルなし二輪玩具）」等の貸出し
- ・ 子ども向けの自転車教室やキックバイク競技会等の開催
- ・ 各種イベントの開催

(3) サイクルスポーツの振興

交流推進や技能向上のため、アマチュアのサイクリストや自転車競技のジュニア選手などに対して支援するとともに、人と人とを繋ぐ人材の育成に努める。

《主な取組》

- ・ 市民がバンクを自転車で走る体験イベントの開催
- ・ サイクルスポーツの裾野を広げるため、ジュニア選手等の育成を行う自転車競技団体等への支援
- ・ サイクリングターミナルと連携したサイクルイベントの企画・開催
- ・ 競輪場施設内に自転車関連アニメ等のサイクルスポーツコンテンツの展示やサイクル関連イベント情報の紹介を行うサイクルスポーツブースの設置

(4) 観光資源としての活用

防府競輪場の情報発信や関係団体との連携による観光客の誘客を推進する。

《主な取組》

- ・ 防府競輪場の魅力を再発見するための写真撮影会などの開催
- ・ 防府観光コンベンション協会等と連携した競輪体験ツアーなどの企画についての検討
- ・ 地元選手及び防府競輪関連グッズの開発・活用

3 安定した経営を目指す競輪場

取組の実施により、結果として市への財政貢献を果たすことで、市民の防府競輪に対する理解に繋げていく。

(1) ファン獲得の戦略

場内外において、競輪の魅力を分かりやすく伝えるための様々な施策を実施するとともに、地元のスター選手のPRや魅力ある競輪情報を発信することにより、新たなファン獲得に努める。

《主な取組》

- ・ 生の競輪を観ることが出来る本場開催日数の引上げ
- ・ 迫力ある競輪を間近で体感できる空間の確保
- ・ SNS等による競輪の魅力発信
- ・ 地元スター選手のテレビ番組等への出演

(2) 売上増大のための方策

本場開催の形態や投票方法などの見直し、来場者へのサービス充実などによる車券の売上増大を図る。

《主な取組》

- ・ インターネット投票の売上げを伸ばすための防府競輪独自の映像・番組制作、キャンペーン等の企画
- ・ キャッシュレス投票システムの導入等による車券購入者へのサービス提供

(3) 効率的で計画的な事業運営

運営コストの見直しのため、新たな業務委託の検討などに取組むとともに、使用頻度の低い施設の有効利用を図る。

また、施設の計画的な改修・整備を行うための財源を確保するため、施設整備基金への積立てを行う。

《主な取組》

- ・ 業務を外部委託した場合の経費削減効果の検証
- ・ 施設整備による集客施設の集約による運営経費の削減
- ・ 本場開催のみで使用する施設等、使用頻度が低い施設の有効利用
- ・ 施設整備計画等に基づいた施設整備基金の積立て

(4) 市財政への貢献

安定した収益を確保した上で、市財政への貢献を行っていく。

防府競輪の貢献について市民の認知度を高めるためのPRを行う。

《主な施策》

- ・ 一般会計への繰出しを行う。
- ・ 防府競輪の貢献についてホームページ等で紹介する。

■参考⑤：高松競輪場再整備に伴う余剰地活用に関するサウンディング型市場調査の結果（令和4年11月）（抜粋）

<趣旨>

高松市では、老朽化した競輪場施設の耐震改修等の安全対策や解体・改築による施設の集約・コンパクト化について検討を行っています。また、集約・コンパクト化を実施した場合に発生する余剰地について、民間事業者との連携による活用の可能性についても検討を行っており、余剰地活用の可能性や条件について、民間事業者の皆様から御意見等をいただく「サウンディング型市場調査」を実施しましたので、結果の概要を公表します。

<意見の概要>

① 余剰地の活用可能性について

- ・（高松市は）サイクリストが多いイメージがあるが、屋島などの観光地への中継するところがない。サイクリングを楽しむ人のためのホテルであれば、宿泊だけでなく、休憩地として利用してもらえと思う。
- ・ 高松市の中心地でこれだけの規模を有する土地はない。
- ・ 浜街道から車の乗り入れができるので、商業施設として利用できる。
- ・ サイクルツーリズムなどの自転車振興に資する施設で独立採算することは難しいと思う。
- ・ 面で開発して、雰囲気を変えることができれば、人を呼ぶことは可能と考える。
- ・ 「サイクルスポーツターミナル」として活用。（期待されている全ての活用の可能性を実現するためのプラットフォーム（基盤となる標準環境））
- ・ 中心部でスケボーやBMXをしている人が、ここへ来てできるということはメリットである。老若男女様々な人が来れるため、中心市街地に住んでいる人の生活環境の向上に繋がると思う。

② 余剰地の想定用途について

- ・ 用途地域を変更されることが前提となるが、サイクリスト向けの各種店舗の設置や自転車イベントなどの開催、レンタサイクルの実施、ホテルの新設などにより、人が集まる仕掛けを講じ、サイクルツーリズムの拠点とすることを想定。
- ・ 用途地域が変更されることを前提とするが、ホテルエリア、サイクルスポーツエリア、商業・サイクル交流エリア、駐車場エリアを想定。
- ・ 40代や50代が元気であるための健康維持のためのスペースがこれからは必要になると考える。
- ・ BMXパークを整備し、カフェなどの飲食店等のテナント、屋外イベントスペースの確保、競輪バンク、観客席の活用など道の駅のような施設とし、競輪場と一体となって活性化していくことがいい。ソフト面で協力できればと考えている。
- ・ 余剰地は借地を想定。北側の浜街道に面していれば商業施設が可能と判断する。
- ・ 多目的に利用できるスペースとして公園や遊具、自転車競技を楽しめる体験型施設、商業系施設（借地）、住宅系施設（購入）を整備することを想定。
- ・ サイクルスポーツをする・観る・支える（育てる）活動拠点の整備

③ 余剰地活用に係る条件について

- ◆ 土地の利用条件について
購入：0者 借地：4者 購入と借地の混合：2者 上記以外：2者
- ◆ 借地期間について
 - ・ 借地期間は30年間。
 - ・ 定期借地で、期間は10年から15年程度。
 - ・ 商業系は20年～30年になる。
- ◆ 地代の想定について
 - ・ 出店するテナント、借地面積、駐車场面積によって地代が変わる。
 - ・ 現時点では出せない。
- ◆ その他
 - ・ 競輪事業の存続期間にわたり高松競輪開催業務の包括業務委託においてサイクルスポーツ振興活動を推進すべきと思われる。

④ 高松競輪場再整備との一体事業の可能性について

- ・ 一体整備により、にぎわい創出の拠点とすることになるので、DBO方式又はPFI（BOT方式）を想定。
- ・ 競輪場に必要となる駐車場施設は、競輪場関連施設の一つとして整備してほしい。
- ・ 建物を建設することはできるが、運営については、市の方向性次第である。
- ・ PFI事業と余剰地活用であれば興味はある。
- ・ 地代を支払いながら、新築した施設を賄えるだけのテナントやパートナーを連れてくることはハードルが高い。
- ・ 高松競輪開催業務の包括業務委託を含めた高松競輪場施設全体の管理運営業務として実施すべきと思われる。

⑤ その他

- ・ 民間事業者として、できることとできないことを明確に伝えることができる関係性が重要である。
- ・ 用途地域の変更は大前提である。
- ・ 近年の物価上昇などコントロールができないことに関しては、予め見合った事業費を積み上げておいてほしい。
- ・ 自転車文化を盛り上げるためにも道路環境を整備することが重要である。
- ・ 競輪場や商業施設だけを目的とするのではなく、市民が集える場所をつくり、憩いの場所を確保することはどうか。
- ・ 1年変われば状況が変わるので、スピード感を持って進めてほしい。
- ・ お金（土地代など）、用途（自転車文化の醸成など）のどちらを優先するのかということは決めてほしい。
- ・ 競輪事業の再生を図る観点からは、（競輪事業により利活用しない）「余剰地」を活用するのではなく、（サイクルスポーツ振興活動を含めた今後の競輪事業により利活用する）競輪場施設全体を活用すべきと思われる。

■参考⑥：他の競輪場の基本構想等の概要

競輪場名	策定年度	構想等名	構想等の概要（ポイント）
四日市	3	施設整備構想	<ul style="list-style-type: none"> 課題（現状・課題・解決の方向性） 施設整備・移転集約化の方向性 整備推進に当たって（概算事業費、将来的な機能拡張、スケジュール、収支見通し）
久留米	3	再整備基本計画	<ul style="list-style-type: none"> 競輪場の現状と課題 競輪場再整備ゾーンの施設整備計画（コンセプト、施設規模の設定、施設配置計画、必要な機能と整備イメージ（メインスタンド棟、選手宿舎・管理棟、芝生観覧スペース）、留意点） 参考資料（整備スケジュール、再整備費用、事業収支）
防府	2	活性化計画	<ul style="list-style-type: none"> 現状と課題 活性化のコンセプト（交流の輪が広がる、快適で利用しやすい、安定した経営を目指す競輪場） 活性化に向けた方向性と取組（明るいイメージの創出、新たな交流の創出、サイクルスポーツの振興、観光資源としての活用） 施設整備（方向性、整備概要）
奈良	元	施設整備計画	<ul style="list-style-type: none"> 収支状況の分析と課題の抽出（売上、収支、受託販売、入場者、対応方向） 施設に関する現状と課題の抽出（エリア別（お客様、管理、未利用）、機能の維持・集約化の方向性） 施設整備計画の検討（方向性、整備方針、整備イメージ、スケジュール・事業費、事業手法、配慮） 収支見通し（売上、支出、収支）
小松島	30	施設整備計画	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の現状と課題 再整備のメインコンセプト 整備の目的と内容（来場促進、運営効率化、施設・設備整備、競走安全性確保） 各施設の改修内容 整備後イメージ 整備スケジュール
熊本	30	施設整備基本計画	<ul style="list-style-type: none"> 現状・課題 施設整備の検討 施設整備の方向性（復旧・解体する施設の整理、施設整備のイメージ） 施設整備の具体的内容（必要となる機能、整備計画、建物改修、災害時の対応） 計画の実現に向けて（法的課題対応、概算事業費・整備財源、想定スケジュール・発注計画）
玉野	29	施設整備計画	<ul style="list-style-type: none"> 競輪場の現状把握（収支状況、施設、サービス（観戦環境、場内サービス施設、バス送迎）、課題整理） 収支見通しの作成（売上、支出、収支の見通し） 施設整備方針の検討（コンセプト、方針（ゾーニング）） 施設整備基本計画の策定（必要となる施設整備及び想定事業費・スケジュールの検討）

第3回向日町競輪事業外部有識者会議 議事概要

○日 時：令和4年11月28日（月） 10：30～12：00

○場 所：向日町競輪場 選手管理センター 3階305会議室

○出席者：川勝座長、岡崎委員、奥野委員、徳廣委員、山本委員 ※小長谷委員は欠席

<議事>

(1) 向日町競輪事業の今後のあり方について

「資料1」～「資料4」に基づき、京都府から説明

(山本委員)

- ・ 京都府からは、現状及び課題認識について、詳しく説明があった。大きな流れとして、車券売上自体は堅調に推移している状況の中、向日町競輪場自体が昭和40年代に整備された施設を中心としており、売上が悪い時代があったのでなかなか施設の更新に着手できていなかった。
- ・ その点について、施設の更新を図るということ、時代に合った競輪場の施設整備、敷地も含めた有効活用を図っていかうではないかというような流れで認識している。
- ・ さらに、それらを具体化していく上で、競輪事業自体を安定的に経営していくという視点といわゆる社会貢献・地域貢献という視点で、何をしていくかということをはっきりとさせて、その中で中長期的に考えていくということである。
- ・ このような様々な活用のイメージを可能な限り取り上げていながら、向日町競輪場の地域性という部分をどこまで取り入れられるのか。また、自転車競技の普及とどのように結びつけていくのかということで、非常によくまとめられているのではないか。

(岡崎委員)

- ・ 資料4の2頁の「外向け車券投票所」について、物集女街道からの距離や、一般の方と遮断されたような雰囲気や設置されるのかなど、設置のイメージを伺いたい。

(京都府)

- ・ 可能な限り物集女街道からは施設の内側に入って、バンク若しくは中央スタンドに隣接するような形での設置を考えており、物集女街道に張り出した形での設置は考えていない。

(川勝座長)

- ・ 仮に改修した場合の事業費については30億円以上と説明があった。包括外部監査の報告書では約45億円との想定であった。包括外部監査の想定事業費は、現在と同規模を維持した場合のものであって、資料で示されているような施設や機能の集約化までを想定した規模のものではないという理解でよいのか。

(京都府)

- ・ 包括外部監査では、解体費、バンクの全面改修及びメイン施設の建替で約30億円から36億円、それ以外で約10億円の合計約45億円とされている。施設の規模としては、資料で示しているような施設・機能の集約化までを想定したものではない。

(川勝座長)

- ・ そうであれば、資料にあるような規模になると、説明のあった30億円程度というのは、概ね妥当なところということか。

(京都府)

- ・ あくまで想定であり、例えば、スタンドをどれぐらいの収容人数にするのかにもよる。収容人数は、施設全体の人数で、スタンドと立見を合わせて5千人規模を想定しているもので、その内訳をどうするのか、また中央スタンドにどのような機能を持たせるのかなどによっても変わるものであり、他の競輪場の事例を見ても様々である。収支の見通しや資金確保の状況も踏まえ、事業費についてしっかり精査していきたい。

(川勝座長)

- ・ 現時点では、正確に事業費をはじき出すことはかなり困難であるとは思うが、大体の規模感は掴んでおく必要があるということで確認させていただいた。

(2) 意見交換

<論点1>

(川勝座長)

- ・ 2つの論点に基づいて、皆さんから御意見をいただきたい。本日の目標について確認させていただくと、有識者会議はこれから向日町競輪事業の今後の方向性についてとりまとめていくステージに入っていくことから、これまでの議論を、特に、今後の方向性を決めるに当たっての重要な論点と思われるのが資料2で示されている2点ということで、整理いただいた。
- ・ まず、一つ大きな方向性としては、存廃問題ということで有識者会議が立ち上がっているのも、その点について今後どのようにしていくのかという大きな方向性について、皆さんからの御意見をいただきたい。
- ・ これまでの有識者会議での議論は、既に存続の可能性が高いというように私としては受け止めている。その点を確実に、有識者会議の中で方向性として示させていただくのであるが、存続するにしても、どのあたりがポイントになるのか。どのような要件を満たせば存続ということになるのかについて、併せて議論いただきたい。

(徳廣委員)

- ・ 昨日まで自転車競技の近畿大会を向日町競輪場で開催していたが、近畿大会を含めて、向日町競輪場で大会を開催する機会が非常に増えており、また滋賀県には競輪場がないということもあり、アクセスの面で、関西全体・近畿全体を見ても、向日町競輪場は非常にアクセスがよく、近畿の選手の話を知っていると、来やすいという話をよく聞く。
- ・ その点は、競技面だけではなく、いろいろな意味で、アクセスがよいというのは非常に有利な面で、メリットがあるのではないかと。
- ・ 令和7年度に滋賀で開催される国民スポーツ大会の自転車競技の会場が向日町競輪場に決定している。また、令和8年度の全国高校総体が近畿で開催されるが、自転車競技が向日町競輪場で開催される可能性が非常に高いのではないかと考えている。そういう意味で、自転車競技としても、向日町競輪場の存在の意味は非常に大きいと思っており、いろいろな意味で、向日町競輪場は魅力ある場所になるとともに、注目もされているの

ではないか。

- ・ 改修するのであれば、令和9年度から10年度にかけてという説明があったので少しホッとしている。本当は、国民スポーツ大会や全国高校総体が新しくなった競輪場で開催できれば、一番いい形ではないかと思うが、これは少し時期的には難しいと思っており、令和9年度から10年度にかけての整備は、タイミング的にはいいのではないか。
- ・ 施設改修について、同じやるのであれば、中途半端ではなくて魅力あるものに改修していただきたい。また、余分なものは省いて集約することも非常にいいことであると思われる。観客席も以前のように大きくする必要はないと思われ、いかにコンパクトにして、お金をかけずにより有効なものにするのかということになってくる。
- ・ その中で、前回の有識者会議で提案させていただいたが、バンクに屋根があるかどうかは、様々な集客、アーバンスポーツ施設や広域避難場所として、かなり意味合いが違ってくるのではないか。
- ・ 様々なイベントを開催する際にも、屋根があるかどうかは天候に左右されないということであれば非常に大きい。太陽光発電を屋根に付けることが可能であれば、電力の心配もなく、災害時でも施設を生かせるのではないか。
- ・ 質問になるが、広域避難場所や防災、災害関連の施設整備には、国からの補助はないのか。施設がそのような意味合いを持つことで、国からの補助が何か得られるのであれば、プラスにも働くのではないか。
- ・ 論点に関して、地域への貢献、公益性の担保ということで考えたときに、様々なアーバンスポーツの魅力で、地域の方々が利用しやすい、アクセスのよさで近畿の各地から来やすい、競技としての魅力、防災面で、向日市民の中で非常に貴重な広域避難場所になるのではないか。

(京都府)

- ・ 国の補助制度の活用に関しては、川崎競輪場は太陽光発電を整備されているが、経済産業省の補助制度を活用されたと承知している。

(奥野委員)

- ・ 改修費の総額について、約45億円や約30億円と今の段階では見積りも精緻に取られている訳でもなく、そういう意味ではかなりブレがある。
- ・ 一方で、競輪場としての場の魅力、競輪を含むスポーツの新たな競技施設、京都府への財政貢献のみならず、地域のスポーツ・健康の拠点など、向日町競輪場に新たな意味合いも持たせるのであれば、一気に整備をする方が適当ではないか。競輪の開催も中止して整備しないといけないということでは、中途半端に整備され、綺麗になっても、地域の方にとってはメリットが見えないことにならないか少し気にしている。
- ・ 結構な金額をかけて整備を行うことになるので、まず競輪の開催に関する部分だけで整備を行うよりは、地域の方にも同時に施設が綺麗になったことで健康増進のために向日町競輪場に行こうとなるような施設整備を一緒に行う方がよいのではないか。
- ・ そういう意味では、論点にある、「一般会計から繰入金や地方債による財源の確保を行わなくても」というところが、京都府に財政的な負担を強いることを望んでいる訳ではないが、4割程度の余剰スペースの活用も含めて資金手当ができるのであれば、繰越金が約18億円あるとのことでもあったが、若しくは、毎年の収益で十分に資金を積み上

げられればもちろん好ましいが、少しそのあたりも含めた柔軟な対応が必要ではないか。

(山本委員)

- 資料にある収支見通しを見る限りでは、単年度収支は基本的に黒字で推移するという一方で、先々の売上減を見込んだとしても、収益は十分確保できるという見通しになっている。
- 一方で、京都府の一般会計への繰出金をどれぐらい見積もるのかは非常に難しく、金額をいくらしなければいけないという決まりもないので、それをどれぐらいに見積もるのかによっては、施設整備のための資金の積立がどれぐらいできるのかということになる。例えば毎年2億円を繰り出したとしても、10年先を見れば40億円から大目に見ても50億円の積み立てというのは、数字としては何とか見込めるぐらいにあるということであり、この収支見通しに基づくのであれば、論点1の①について、要件を満たしていることになるのではないかと。
- ただし、改修をどのようにしていくのかは、資料にある「基本構想の策定」の中で考えていかなければならない。その内容によっては、事業費がすごく膨れてしまう可能性もあるかもしれない。
- 資料4の3頁に、他の競輪場で最近どれぐらいの事業費をかけて整備が行われているのかが示されている。競輪場によって事情がいろいろと異なるので、事業費の金額自体を単純に比較することはできないが、概ねこの範囲に入っているということを考えれば、内容をきちんと精査することで、十分整備ができるのではないかと。
- その面について、論点2に関係するとすれば、整備の内容、どのような施設にするかについても、きちんと基本構想で、また資金確保を再度確認する上でも、このような取組、論点2の課題に対してきちんと答えていくということは、現時点で、この収支の見通しであれば十分できるのではないかと見て差し支えないと思われる。
- 施設整備の中身は非常に難しいと思われ、今ここで議論することではないが、施設整備の方向性としては、前向きに進めていくことは可能ではないかと。

(岡崎委員)

- 収支面では黒字になる見込みとの説明があった。一般会計への繰出という地方財政への貢献も十分理解できるが、それだけで存続するというのは、今の時代にはなかなか難しいのではないかと。
- その地域でどれだけ貢献をし、競輪場以外の施設としても活用できるのか。競輪の競技としての活用も含めて、そういうようなまとめ方にしていただけたらありがたい。
- 特に、今議論されていたのは競輪場としての整備の話ばかりになっているが、地元住民からすれば、この70年間、向日町競輪場が存続し、今はうまく共存できている環境にはなってきた。残念なのは、競輪場が生む経済効果が地元にはもうなくなってきている。やはり人が動いていないということが一番大きいのではないかとと思うが、これはもう将来的には難しいだろうと思われる。
- それに合わせた周辺整備を十分行うことも計画に盛り込めないか。これは競輪場だけの役割ではなく、京都府として向日町競輪場を存続していくという前提の中で、今まで以上に、向日町競輪場の周辺の環境整備を図るような提案も入れていただければと思う。
- 余剰スペースの活用の中で、この点について全て解決していけるということではない

かと思うが、そのあたりについても言及があればと思う。そのあたりが、まだ具体的に
見えていないので、もう少しそのあたりについても言及していただきたい。

(京都府)

- ・ 地域との関係性についても、基本構想を策定していく段階でしっかり検討を行い、反映させていきたい。

(川勝座長)

- ・ 委員の皆さんからそれぞれ御意見をいただいた。基本的には、存続について前向きな意見が多く、それは第1回の有識者会議から変わらないという印象である。
- ・ 存続するに当たっての重要なポイントは、収支の見通しは当然のことではあるが、同時に、地域貢献に資する形での存続という方向性が最も重要な点ではないかと思ひ、皆さんの御意見を聞かせていただいた。
- ・ また、施設の老朽化は本当に著しいが、向日町競輪場が持つ場のポテンシャルについては、多くの委員の皆さんからいろいろな形で御意見いただいた。
- ・ 徳廣委員からはアクセスのよさ、地理的に比較優位であるというところは、競輪場は全国にあるが、その中でも特に誇れるものの一つなのではないか。それは向日町競輪場を訪れる来場者も、地域の方もそうであるが、選手の皆さんにとっても魅力がある、そういう地理的なアクセシビリティの高さが非常に大きいという御意見をいただいた。
- ・ また、競輪事業の魅力・ポテンシャルに関して、スポーツとしての魅力、競技としての魅力についてもいろいろと学ばせていただいた。このあたりも存続をしていくということの意義として強調していいところではないか。
- ・ 資金繰りに関して、粗々ではあるが本日示された収支の見通しについて、何とかこれぐらいは資金を確保できるのではないかという見通しも立てていただいている。そういう意味でも、ある程度、存続のための資金面での条件は備わっているのではないか。
- ・ ただし、あくまで収支見通しは将来予測であり、何が起こるかかわからないというところは常にリスクヘッジしておかなければいけない。そういう意味では、論点1の①の収支見通しに関しては、継続的な分析が必須ではないか。
- ・ あくまでこの収支見通し・予測は現時点での見通し・予測であり、資料3に記載もあるが、アフターコロナによる観光レジャーの回復、最近の物価の影響・変動による消費の冷え込みなど様々な経済動向をにらみながら、判断しなければいけないという状況下にあることから、やはり条件として、継続的な分析が、収支の見通しを立てていくときには重要である。
- ・ 奥野委員からは、整備に当たっては工期を分けないで、むしろ一気にいった方がいいのではないかと御意見をいただいた。一体的に整備を行うことで効率性を高めるということでもあり、また将来予測が非常に不確実な中で、いつ収益状況が大きく変動するのかわからないことを考えると、堅調に売上を上げている段階で一挙に整備を行ってしまうというやり方は、一つの戦略ではないか。また、余剰スペースの活用も、もの次第では、潜在的なレベルである収益源を生み出せる可能性もない訳ではない。
- ・ 過大な見積もりは避けて欲しいというのが正直なところではあるが、一方で、こうしたポテンシャルを加味して、予測可能な範囲で一挙に整備を行ってしまうといったことは、一つの戦略、アイデアとしては悪くないのではないか。

<論点 2>

(山本委員)

- 余剰スペースをどのように有効活用するのかは、競輪を実施する施設部分とは違い、ある意味フリーハンドでいろいろなことが考えられる。前回の有識者会議で提案があった屋根付きなど、それなりに費用がかかると思われる。ドーム型ではない、いわゆる屋根付きの競技場という実例は知らないが、そういうものがあるとすれば、事業費的にはどのようになるのかがわかれば、この収益の中でやるかどうかは別として、どれぐらい実現性が高くなるのかということに近づくのではないか。

(徳廣委員)

- 日本国内で屋根付きの競輪場はなく、ドームしかないのではないか。ただドームもかなりの金額がかかり、冷暖房費、空調もかかる。
- 世界選手権に出てきた選手や指導者からは、ヨーロッパや世界では屋根付きの方がドームよりも逆に多いと聞く。その理由は、予算がかからないからということである。
- 競輪場ではないが、宇治市にある京都宇治アイスアリーナは、かなり簡易な建物で、観客席も少なく、屋根にも太陽光発電設備を設置し、要するにアイススケート場で一番お金かかるのが氷を作ることであるが、太陽光発電設備で補っており、ほぼトントンでいけるという話も聞いている。整備時にはある程度金額がかかっても、ランニングコストを考えると、優位性はあるのではないか。
- バンクを333mにコンパクトにすることで、屋根の大きさも抑えられるのではないか。ただ、それでもバンク全面を覆うとなるとなかなか大変なものになるかもしれない。そこは考え方で、屋根のサイズ、逆にトラックではなくて、周辺の施設の中で大きな屋根、活用できるような屋根を作るなどいろいろな考え方がある。
- 中央スタンドだけで、周りには屋根をつける必要はないので、それ以外の施設、アーバンスポーツの施設を補うような屋根があつてということであれば、それも考え方の一つではないか。また、広域避難場所にもなるという考え方もあるのではないか。

(奥野委員)

- 屋根があれば、広域避難場所としての活用という意味ではすごくよいと思われ、バンクも雨風で傷まない。多額の改修費をかけるので、維持費を考えると、バンクが傷まずに継続できるということが必要なのではないか。
- 屋根があることで、バンクが痛まないことにどの程度貢献するのか。一方で、屋根を付けると、空調、夏の暑さに対して、建物として閉鎖してしまうのがどうかというところも含めて、何が案になるのかは是非検討いただきたい。建てて終わりというよりは、建てた後の維持管理コストが建物にはつきまとうので、本当に大変ではないか。
- そういう意味で、一気に整備するのは、地域の方々が利用できる部分の余剰スペースの部分の投票所の取り壊しも含めて、費用は多額にかかる可能性があるということ、余剰スペースをどのようなコンテンツにして、民間導入を上手にやっていくのかということがとても大事ではないか。
- 今後の省エネ対策にうまく活用できるかということも考えた屋根付きという部分を含めて、検討いただきたい。

(岡崎委員)

- 余剰スペースの活用方法について、今までの向日町競輪場のイメージは、塀の中で競技が行われていたという暗いイメージがずっとつきまとい、地元の者にとっては、いつ開催されているのか、それすらわからないような状況であることは事実である。
- 地域住民の皆さんと向日町競輪場が分断されている部分が実はあるが、そういうことを解消できるような施設整備の方法を検討いただければ、地域住民の皆さんにも親しまれる施設になり、まして向日市の場合、向日町競輪場のような広大な土地がないので、防災面での、広域避難場所に指定されているが、設備的には非常に難しい状況になっているので、そういった面も前提とする中で、余剰スペースの活用を十分に図っていただき、地域住民の皆さんとも連携が図れるような施設になっていければと思う。それがひいては、地域の経済効果を生むことになるのではないかと。

(徳廣委員)

- 敷地外の少し離れているグラウンドの駐車場について、今後競輪場と併せての活用を考えているのか。そこに駐車した場合、道路を横断したりして移動するのはかなり不便で、近くにあるのに不便という印象をすごく受ける。一方、敷地外の駐車場としている場所はかなりよい場所で、アクセスもしやすいので、向日町競輪場の敷地内ではないが、余剰スペースとしても使える部分でもあるのではないかと。
- 費用はかかるかもしれないが、向日町競輪場と横断陸橋のようなものがあれば、向日市役所と連携ができるといったことを、駐車場を利用する際にはいつも考えている。

(川勝座長)

- 論点2に関して、競輪事業、競輪場についての課題と必要な取組ということで、御意見をいただいた。具体的に屋根付きがいいのではないかと御意見もいただいた。
- 屋根を付けることは、それなりに追加的に費用が当然発生するが、一方で、屋根を付けることで、例えば、バンクの損傷が抑制されるという意味では、少し長いスパンで見た時の維持管理費が抑制されるのではないかとということも含め、屋根を付けるのか否かなど施設整備を考える時には見積もって考えてみるということも一案ではないかと御意見をいただいた。
- 今後の課題と必要な取組という方向性について、改めて確認をしておきたい。一つは、競輪事業は、ある意味、自立経営ができる可能性があるという点である。特に、経常経費だけでなく、普通であれば難しい資本の整備というところも、自ら積み立てをして、計画的にその財源を確保するという術を持っているということである。
- 京都府財政が厳しい状況にあるので、京都府財政に影響を与えないということが、一番大きな前提になるであろうし、それなしにはおそらく合意が得られないのではないかと。したがって、資本費のところも順調にいけばではあるが、自らカバーできる可能性があることが、存続の理由の一つというように言っているのではないかと。
- 一方で、京都府財政への貢献は、依然として失われてはいけないう面である。いくらの金額を繰り出すのかは特に定めがないところであり、定める必要もないとは思っているが、京都府財政にも一定貢献している、あるいは貢献できる可能性があるというところは、存続の前提として、今も非常に重要な要素ではないかと。
- もともと、地方自治体が公営競技の実施を認められている条件に、地方財政への貢献

がある。したがって、自立的に経営できているので、もうそれでいいのだということではなくて、やはり一定の還元が京都府財政にもなされる、そういうものになっているということは、揺るぎない、非常に重要な要素である。現時点の見通しでは、大きな期待をしてはいけませんが、一定そういうことにも貢献し得るということが言えそうであり、またそれが今後の課題であると位置付けておいた方がいいのではないかと。

- 必要な取組については、委員の皆さんの御意見を伺う限りでは、余剰スペースをどのように活用するかが大きいのではないかと。これはひいては、地域住民の皆さんとの連携をどのように図っていくかということであり、非常に大きなポイントになると思われる。
- 従来、向日町競輪場は、地域の方と大袈裟に言えば少し分断されているような感じになっていたのではないかと。つまり、利用する人にとっては非常に身近な存在かもしれないが、特定の人しか活用していないということになってしまうと、せっかく地域の中にあるのに、地域との関係性があまりよくなかったり、連携を深めるような環境になっていなかったりということになってしまい、地域の皆さんにとっても愛される場ということにもならない。そういったことを解消していくような、余剰スペースの活用が重要になってくる。したがって、存続の条件として、余剰スペースの活用方法については、地域住民の皆さんの意見を聞く場をしっかりと設けるべきではないかと。
- ひと手間もふた手間もかかると思われるが、長きに渡って使っていただく、そのために大きな投資をするので、施設整備ができてからこんなはずではなかったということになってはいけません。むしろ地域住民の皆さんに応援してもらえないようにならないといけませんので、やはり検討のプロセスに関わっていただくと、向日町競輪場を使おう、使いたいと地域住民の皆さんも思われるのではないかと。
- 余剰スペースの活用のあり方を考えていく際には、しっかりと地域住民の皆さんを巻き込んで意見を聴きながら、こうなったらいいのではというビジョンをしっかりと共有しておくということは、手間はかかるかもしれないが、とても大事なことではないかと。
- そうしたことが、ひいてはスポーツ人材の育成、特に子供たちのスポーツ人材としての育成にも繋がっていくのではないかと。特に、向日町競輪場の周辺地域は、子育て世代が非常に多いということも前回の有識者会議では説明があった。子供たちが、健康面はもちろんのこと、日本だけでなく、世界でも活躍する人材として羽ばたいていけるような機会を、この場を使って設けることができれば、さらに素晴らしいことではないかと。そういったことも一つの地域貢献と言えるのではないかと。そのような観点を持つことで、初めてこの競輪事業、競輪場を継続していくということになるのではないかと。
- 大きくは、京都府財政との関係と地域住民の皆さんとの関係・連携、これらの観点が、特に事業を存続していく上で重要な課題になり、必要な取組ということになるのではないかと。

(以上)